



「ソピア（知恵）の旗」だより

ソピアとはギリシア語で「知恵」という意味であり、本校の校歌の歌詞にある言葉です。



2019・9月 NO. 4

野草を食べたよ！！

7月2日（火）2年生の「ライフセービング」の授業で、日本防災植物協会事務局長・斉藤香織様を講師に招き、災害時の非常時に食べられる雑草の種類と食べ方を学びました。ヨモギやフキなど、普段身近に見ることができる野草12種類が食べられるものだと理解した後、実際に調理をして試食しました。実際調理に使用した植物はスベリヒユで、それをマカロニサラダにしてみました。生徒たちは「思っていたよりもおいしかった」「毒のある植物もあるので、今日学んだ種類を覚えておき、災害時に役立てたい」と話していました。



????福祉避難所運営を考える！！！！

7月10日（水）に、あったかふれあいセンター「にしきの広場」で本校生徒10人と職員や地域の方20人が、避難所運営ゲーム（HUG）による訓練を行いました。「にしきの広場」は災害時、要介護者や医療配慮者等の方々を受け入れる福祉避難所となりました。その設定もHUGに追加して実施しました。「妊婦さんはどうする？」「盲導犬の対応は？」など、活発な意見交換が行われました。

生徒は、「障害のある人の家族と一緒に受け入れたいけど、スペースが足りなくなる。」「判断がすごく難しい。」「家族は大方高校に避難してもらおうかなど、事前訓練等による連携が大事だと思った！」と感想を述べていました。



いごっそうアクアスロン大会 参加！



7月7日（日）に、佐賀港で「第26回いごっそう『アクアスロン大会』」が行われました。本校からはビギナーリレーの部に1年田辺君と石丸先生のペアが出場しました。水泳経験者の石丸先生はスイムを担当、途中疲れましたが2位でラン担当の田辺君（陸上競技部）につなぎました。日頃の練習の成果を発揮して懸命に前を追って力走し、チームは2位でゴールをしました。田辺君は「先生と一緒に頑張って入賞で来てうれしい」と感想を述べました。



また、13人の本校生徒が大会運営のボランティアとして参加しました。選手の安全確認やキャップ・バンド等の配布・回収、走り終わった選手へのアンケートなどを担当し、スムーズな運営に貢献しました。

津波から逃げる！



7月9日（火）に入野本村地区からの津波避難の検証を、地域学を学ぶ本校の2・3年生が行いました。新バイパスにより避難経路が大きく変わった同地区の様々な場所から、京都大学防災研究所が開発した「逃げトレ」アプリを利用し、大方高校や黒潮町役場へ避難できるかを検証しました。高齢者を想定した器具（関節が曲がりにくくなるサポーター、おもりなど）を装着して、4か所から一斉に避難しました。どの班も津波浸水予想時間より5分以上の余裕を持って避難することができました。その後、振り返りを行い、7月24日（水）の入野本村地区防災会議で報告をしました。



生徒は「地震発生5分後までに逃げれば大方高校まで来ることができる。揺れがおさまってから荷物をまとめたりする余裕はないので、大方高校に個人袋を置くなども協議しては？」といった提案を行いました。

ナイスピッチング！！

7月28日（日）に、大方球場で「四国アイランドリーグ plus」の公式戦が開催されました。

高知県のファイティングドッグスと香川のオリーフカイナースの試合でした。

始球式では、本校3年の竹本さんと大方中学校の野球部のバッテリーがマウンドをはさんで立ち、アナウンスの後、キャッチャーに向けて思いっきり投げました。竹本さんが投げたボールはノーバウンドでキャッチャーミットに。その場にいた商工会長さんや町議会議長さんからは、「なかなかえい（良い）ボールを投げるやんか。」とのおほめの言葉も。竹本さんは、満足そうな顔を見せていました。



山形県「小規模校サミット」に参加

7月30・31日に山形県で開催された「第2回全国高等学校小規模校サミット」に、本校から1年生の三浦君と浜中君の2名が参加しました。今回が2回目となる大会には、全国から131名の高校生が集まりました。まずは、各校それぞれの特色ある取り組みについて発表し合いました。途中、マイクが使用できなくなるハプニングがありましたが、それをものともせず、2人はマイクなしで堂々と発表しました。

その後、「小規模校だからこそできる取り組み」について複数回グループを変えてワークショップを行いました。「小規模だからこそ、一人一人が大事にされ、地域とつながり地域を生かした取り組みにより成長できる」などの意見が出されました。

参加した生徒は、「同じような環境の仲間がいて頑張っている姿を見てもっと頑張ろうと思った。」「県外の友達ができ、コミュニケーション能力が向上した。」と話していました。



京都大学の防災関係施設を訪問しました！！

8月1日・2日の両日、大方中学校の防災委員他の生徒8名と一緒に京都大学の防災関係施設を訪問してきました。大方高校からは、防災委員と生徒会を兼ねる中村・濱岡・ハジフ・濱口の4名の男子生徒と、山崎・徳廣（蘭）・徳廣（凜）・中澤の4名の女子生徒が参加しました。

初日は京都大学吉田キャンパスに昼過ぎに到着し、学生食堂で食事。食事の値段の安さに生徒たちは感激していました。

防災研究所では、「防災ミュージアム」の展示物の説明や、地震計・DVD、液状化現象の紹介などをしていただきました。見学後は研修室で「防災クロスロード」の演習を行いました。

2日目は、大阪府の高槻市にある「阿武山観測所」を訪問し、京都大学の矢守先生のご説明を聞きました。その後施設見学を行いました。大森式地震計やドイツ製の1tもあるウィーヘルト地震計、最新の手のひらサイズの満点地震計など歴代の地震計がずらり。見学した生徒たちの印象が強かったのは、1tもあるウィーヘルト地震計でした。

強行軍の2日間でしたが、生徒たちは多くのことを学びました。



参加した生徒は、「いじめを未然に防ぐための雰囲気づくりが大切やと思った。」「小学生も中学生もいろんなアイデアがでてすごい。みんなが学校を楽しく過ごせるようにするために考えないかん。」と帰路の車中で話していました。

今期の生徒会目標に掲げている【一人一人が参加できる学校】を目指すうえで、今回の交流会は非常に有意義なものであったと思います。



「AMDA中学生高校生会」と交流しました

8月31日（土）に、岡山県に本部がある「AMDA中学生高校生会」のメンバーと、大方高校・佐賀中学校・大方中学校が「高知県立幡多青少年の家」で交流をしました。

AMDAは、国際医療ボランティアの活動をしている特定非営利活動法人です。その中で中学生や高校生がボランティアを行っている組織が「AMDA中学生高校生会」です。黒潮町への来町は3年目となりますが、今回は初めて1泊2日の日程で来町し、黒潮町の総合防災訓練にも参加しました。

交流会は各団体からの実践発表⇒防災クイズによる交流⇒防災食づくりの流れで進み、大方中学校の防災委員会の生徒が司会進行を行いました。本校からは6名の生徒が参加し、1年生の宮川君と2年生の濱岡君が学校の概要や、防災の取組などについて報告しました。

AMDAのメンバーからは、「このような交流をとおして相互に支援し合える関係になりたい。」「南海トラフ地震が発生した際には、私たちが黒潮町を支援します。」との発言がありました。



みんなで楽しくボールを蹴りました！

8月12日（月祝）に、「JFAなでしこひろば黒潮by大方高校」を初開催しました。ゲスト指導者として、アトランタ五輪やW杯にも出場し、TV会議解説などでも活躍されている小林弥生さんをお招きしました。高知市や愛媛県の愛南町など、県内外から26名が参加しました。とても暑い日でしたが、初めてボールを蹴る人からサッカーの経験者まで、みんなが楽しくサッカーをすることができました。また、町長さんや地元の少年サッカーチームの監督さんも会場に来てくださり、多くの観客でにぎわいました。

ボールフィーリングでは、リフティングが上手になる目標設定のコツなどのアドバイスをいただき、経験者にとっても具体的で、わかりやすく教えてくださいました。最後にみんなでゲームを行い、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。



「総合的な学習の時間」

中間発表会を行いました！！

8月28日（水）に2年生の「総合的な学習の時間」で取り組んでいる「自律創造型地域課題解決学習」の中間発表会を開催しました。これは、地域の企業や役場の事を知り、その中から課題を発見し、解決方法を考える取り組みです。

今年度は、NPO砂浜美術館、道の駅ピオスおおがたひなた屋、株式会社黒潮町缶詰製作所、ぴちどーる、有限会社サザンウェーブ「maprok」、土佐ユートピアカントリークラブの6事業所に協力していただき、各班が課題解決に取り組んでいます。

発表会では、1年次の学習成果発表会での反省を生かし、各班一人ひとりが役割を全うし、発表に取り組んでいたように思います。アドバイザーの方からの質問に、戸惑っている班もありましたが、自分なりの言葉で受け答えができていました。



「高知家」児童会・生徒会 地区別交流会に参加しました！！

8月25日（日）に宿毛市立宿毛文教センターにて開催された、「高知家」児童会・生徒会地区別交流会に、本校から1年生の三浦君とハジフ君の2名が参加しました。

県内の小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の児童会・生徒会の代表者等が集まり、いじめ問題をテーマに実践活動の発表や協議を行いました。

児童会とのグループ協議では、司会者として多くの意見を聞き出すことができました。